

地域	現況・課題	今後の方向性と要望
御門	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年から役員を対象に避難所運営訓練を行っている。 ○錦田小学校が避難所になるが、実際すべての人が入りきらない状況である。 ○自宅が無事ならできるだけ自宅待機するよう呼びかけている。その対策として耐震補強など勧めるが、なかなか乗ってくれない。 ○9月の運動会のときに人数が集まるため消火器訓練をした。 ○平成17年に会長になった。防災関係では機材の充実というところから入った。また、町内のイベントで人を集めることをした。それがずっと続いているわけだが、それがきずなづくりにつながっている。 ○自分がまず生きることを考えなくてはならない。 ○8月に役員で防災センターの見学に行った。職員の話を知っていると、家具の補強の話を強調しているように感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○11月末に総合的な防災訓練を実施予定である。要援護者のことを考慮した訓練にしたい。
松が丘	<ul style="list-style-type: none"> ○11月4日に防災訓練を実施予定である。 ○消火器訓練とスモークハウスの体験、応急処置の練習をする予定である。 ○7月9日に錦田中学校で開催された自主防災研修会に参加した。避難所の運営と設営の仕方について図上でシュミレーションするという内容だった。いわゆる HUG ゲームである。初めて参加したが、全く時間が足りなく、三分の一もできていない状態だった。研修の目的が全く達成されていないという印象を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は研修のあり方を根本から考え直していただきたい。内容的には有意義で効果がありそうだ。 ○市民防災マニュアルが非常によくできているのでうまく活用してもらいたい。たんすの肥やしではもったいない。図書館、公民館、老人施設などの公共施設ではもっと目につく場所に置くべきだ。 ●市民防災マニュアルは何年か前に全戸配布している。うまく活用できていない家庭が多いので、市のほうでも対策を検討したい。(市長)

谷田	<p>○8月26日に防災訓練を実施した。</p> <p>○一般家庭の台所の消火訓練をした。フライパンにオイルを入れ、10型消火器で消火活動を行った。主婦の方にやってもらった。好評だった。</p>	
	<p>○スモークハウス、可搬ポンプによる消火訓練も行った。</p> <p>○耐震補強など勧めているが、実際にやっているという例は聞かない。</p>	
	<p>○この地区では、液状化も心配される。各家庭での対応が求められる。地盤は見えない部分なので非常に問題がある。</p>	<p>○来年の市の計画をもう少しきめ細かくしていただければ、耐震補強の積極的な話もいただけるのではないかと考えている。</p> <p>●液状化の危険地域については市のほうに問い合わせただければ、心配な点などにもお答えできると思う。(市長)</p>
並木	<p>○7月9日の HUG ゲームに参加した。9月9日に町内の防災訓練で実際に実施して好評だった。</p>	<p>○その後、具体的な指示がない。指示があったほうが良いと思う。</p>
	<p>○役員を1年で交代しなければいけない。学校などと連携を持つなどの任務を考えると期間が短いのではないかと。</p>	<p>●役員同士で共通の認識をもってもらうことが大切である。その上で防災対策について考えていってもらいたい。(市長)</p>
緑ヶ丘	<p>○自主防災の組織がはっきりしない。</p>	<p>○見直しをしなければいけない。来年の総会にかけられる様案を作っている。</p>
	<p>○県からのアンケートに答えられない部分がたくさんあった。</p>	<p>○それに答えられるように補充していかなくてはならない。規約の改正、自主防災の規約の作成など。</p>
	<p>○アパートの住人(約40～50件)が自治会に入らない。</p> <p>○アパートの管理人とは話をしているが、埒が明かない。「昔の町内会長が入らなくていいと言った」、「そんなことを言うと入る人も入ってくれなくなる」等言われる。どうすればよいか。</p>	<p>○自主防災という名目で入れて、自治会に入ってもらおうという方法を考えなくてはならない。</p> <p>●自治会に協力的ではないアパートの住人が、震災の際、避難所に逃げてきた場合食事を出してやるかどうかということアパートの住人と話し合ってみてはどうか。この件に関しては市全体の町内会で考えていかなければならない。(市長)</p>
	<p>○市から75歳以上に5千円もらえるということで、対象者43名に配った。要援護者の中には、この人達も入ってくるので、どうするかを考えなければならない。</p> <p>○やることがいっぱい何から片付けてよいかわからない状況である。</p>	

	<p>○アパートのゴミ処理問題、アパートの住人はお金も出さないが、処理は自治会で行っている状態である。1棟だけは月に300円出すからやってくれと言われている。</p>	
	<p>○上層部はこうなっている、その下に我々がいるという風に組織体系をはっきりさせ、規約の改正を行っている。</p> <p>○町内会でも5人本部の方に籍を置いている。</p> <p>○町内会で決められないことはその上層部で決めることになっている。自治会長もその上層部に入っている。</p>	
東富士見	<p>○10月28日に防災訓練を実施した。</p> <p>○3. 11以降、きずなに着目した訓練を行った。『向こう3軒両隣』の考えを取り入れて、町内の日頃の付き合いをさらに深める訓練を実施した。</p> <p>○この考えの下、『黄色いハンカチ』を使った訓練を行った。各戸に黄色いハンカチを配り、訓練開始の合図に、無事だという場合には黄色いハンカチを掲げてもらう。黄色いハンカチのないお宅に対して、向こう3軒両隣の人が声をかける。</p> <p>○黄色いハンカチを、80%以上のお宅に表示してもらえた。</p> <p>○各班1～2名に、事前に打ち合わせをして要援護者を誘導するようお願いした。まずは近所の方に、こういう人がいるのだということを確認してもらった。</p> <p>○要援護者に関して、行政・民生委員・防災指揮が情報共有をした。</p> <p>○『黄色いハンカチ』を初めて行ったが、訓練の参加者が100名から147名へと大幅に増えた。</p> <p>○こういった仕掛け作りが大切だ。</p> <p>○第五避難所(小学校)で、『今の組織は絵に描いた餅』ということで、組織改革を行っている。今の組織ではみんな自治会長が入って活動しているが、それではいざというとき困る。</p> <p>○『動ける組織』づくりを行っている。12月いっぱいにはできる。</p>	
小山中島	<p>○通常の訓練に加え、AED を使った訓練を行った。119番してから消防車がかかるまでに時間がかかるので、その前に対応できるようになっておく必要がある。</p>	<p>○AEDはスイッチを入れれば音声でガイドされる。怖がらずに使ってほしい。</p>

竹倉	<p>○災害があっても、自宅でがんばれるという家が多い。避難所へ行かなくても済むのではないか。兼業農家が多く、米があつて水があつて後ろに山があるという恵まれた環境にある。防災関係はそれほど心配していない。</p> <p>○錦田小学校の近くの田んぼが冠水し、上の方にある寺が御門まで流されたことがある。いつどうい風流されたのか。かつての災害の状況が気になる。こども夏梅木川の氾濫ということで昔と同じ様な状況になるのではないか。</p>	<p>○市の方で夏梅木川が氾濫したらどうなるのかを調査していただきたい。</p> <p>●水害のことは、また別の機会にお話したいと思っている。(市長)</p>
桜ヶ丘	<p>○9月に錦田中学校のグラウンドと体育館を使って防災訓練を行った。</p> <p>○三角巾の訓練を第6分団の方をお願いして行った。AED もやりたかったが、バッティングしてしまったため今回はできなかった。</p> <p>○水消火器、簡易トイレ、チェーンソー、可搬ポンプの訓練を行った。可搬ポンプを稼働させるのに手間取った。</p> <p>○リヤカーの展示を行ったら、リヤカーを欲しいと興味を持つ組がいくつかあった。災害時に物を運ぶだけでなく、お年寄りの方も乗せて運べるのではないか。</p> <p>○三角巾の練習に時間をくってしまった。そこで人が滞ってしまった。</p>	<p>○時間の使い方を考え直したほうがよいのではないかと思った。</p>
錦田幼稚園	<p>○園舎は建ててまだ新しい。耐震補強はしっかりしている。(PTA)</p> <p>○昔は小学校の方へ避難していたようだが、これからは子ども園の方で待機をするということになっている。(PTA)</p>	<p>○備蓄などもそろえ始めていて、いずれは個人の備蓄(ペットボトルの水1本、1食分何か食べられるもの)を用意しようと考えている。(PTA)</p>
錦田小学校	<p>○仙台市に視察に行った。</p> <p>○学校で子供たちがまだ下校していない、親の引取りがきていない状態だったにもかかわらず、避難者が土足で学校に押し寄せた。学校機能が崩壊し、避難所に移行していった。</p> <p>○翌朝、水洗トイレが機能していない状態のなか、便器にうんちがたまっていた。それを片付けるのは学校職員である。それを見た避難者が手助けをするようになった。それが避難所機能の始まりだった。</p> <p>○子ども園に幼児が400人いるという特徴的な地区であるということの認識も必要だ。</p>	<p>○避難所運営も組織改革をしているとお話があったが、なんとか地区のほうから専用スタッフが学校に早くきてくれるようお願いしたい。学校機能から避難所機能に移行する訓練も必要になってくるだろう。</p>

	<p>○小学校では A4サイズの『6つの安全』といったものがあり、保護者・学校・子供たちの間で震災の際、誰がどうするかという訓練ができています。(東富士見)</p> <p>○そういう取り組みがされていることを地域が意外と知らない。(東富士見)</p>	<p>○学校でこういうことやっていると自治会で取り上げてみてはどうか。(東富士見)</p>
全体	◇避難について	
		<ul style="list-style-type: none"> ●県の地震防災センターにみんなで見学に行ってもらいたい。(市長) ●市の危機管理課を呼んで、講演を聞いてほしい。(市長)
	○私たちは中学校へ避難することになっている。しかし、この集まりは小学校区である。小学校か中学校かはっきりしてもらいたい。(緑ヶ丘)	●これは小学校に通う地域という形で集まっている。防災というと避難所という観点で考えてしまいがちだが、今回のくくりは小学校区ということでやっている。(きずなづくり推進室)
	○避難者の点呼は町内単位でやるのか。学校単位でやるのか。(並木)	●点呼は町内単位でやる。(きずなづくり推進室)
	○防災委員で避難する必要がある人かない人か、いちいち識別するわけにはいかない。避難するか否かは本人の判断に任せるのか。(並木)	○避難するか否かは本人が判断する。(参加者)
	○錦田小学校には医師がいる。中学校にはいない。持病がある人は小学校に行きたがるようになるだろう。そのとき点呼はどうするのか。(松が丘)	
	○病気とか足腰が悪いといった理由で避難するのはいいが、まともな人が避難することもある。それを組長が止めるといったことはできない。防災委員がやれる自信もない。どうすればよいか知りたい。(並木)	○答えが出にくいところではあるが、他の町内でも問題になっているとすれば、次の機会にはそういうことも議題にあがってもいいのかもしれない。(地域まちづくり研究所)
	◇物資・備蓄について	
○東北の震災を例にとってもわかるが、自宅が無事でも避難所に避難してくる人はいる。なぜかといったら、避難所には支援物資があるから。避難所では食べ物が支給されるが自宅では何も無い。(松が丘)	○支援物資の件はひとつの反省点でもある。支援物資は避難所にしか必要ないのでとは供給側が思いがち。避難所と行政と自治会の連携をあらかじめ考えておかなければならない事例のひとつである。(地域まちづくり研究所)	

◇地域行事について	
	○神戸の被災者の方に以前講演をしてもらったとき聞いたのだが、防災訓練の前の段階を生活防災といって、普段の生活の中から防災を取り入れていこうというものがある。例えば、普段のお祭りのときに親睦だとかきずなを深めていくといったもの。こういったことが必要である。(御門)
◇地域の連携について	
○防災の関係は各自治会単位で動いている。小学校の方では連絡協議会を立ち上げてやっている。錦田自治会連合協議会としてのサポートを考えていかなければならない。他の地区でこういったテーマにふさわしいことをやっているところがあれば教えていただきたい。(東富士見)	●これまでやってきた中では、沢地小学校区が普段から学校区の方が集まって色々な意見を交わしているということで、非常に連携が取れている。(きずなづくり推進室)
●まず1番大事なものは自治会だが、校区がひとつにまとまっていけないとなかなか住みよい地域はできない。校区単位であつまって連携を深めていこうということで、こういう会を開いている。(環境市民部長)	●防災で一番大事なものはきずなである。きずなをどうやって作っていったらいいのか。一番の方法は『向こう3軒両隣』、そこからきずな作っていかないと町内でのきずなは生まれないし、町内と町内のきずなも生まれてこない。どういう方法できずなを作っていけばよいか考えて欲しい。(環境市民部長)